○あなたの学校に〝いじめ〟はありますか
・わからない34％・ある33％・ない33％
○あなたは〝いじめ〟に関わった事がありますか。・関わったことはない51％・いじめられた事がある22％・いじめた事がある16％・いじめを見て見ぬふりをしたことがある12％
○今後〝いじめ〟は減ると思いますか。
・増えると思う39％　・減ると思う19％
・わからない42％

# 「いじめ」のコントロールは現代の「人間の証明」

馬居政幸
（静岡大学教授）

○〝いじめ〟の原因は誰にあると思いますか　・両方46％・いじめる側30％・周りで見ている側10％・いじめられる側9％・その他5％

これは少年ジャンプ14号に掲載された調査結果の一部（集計件数三千　平均年齢十四、四九）。先生方はこの結果をどうみるか。私は二点指摘したい。

その一つは「いじめ」は特別なことではなく誰もが関係者であるということ。学校に「いじめ」が「ない」と明確に答えたのは三人に一人。加害、被害、傍観のいずれかに二人に一人が関わり、今後は「減る」と思っているのは五人に一人にすぎない。これは「いじめ」は誰もが被害者にも加害者にも傍観者にもなりうることを示している。

誤解を恐れずにいえば、「いじめを根絶する」といわれるが、それは不可能、むしろそのこと自体が新たな「いじめ」現象を誘発するはず。逆に、誰もが当事者になりうる人間関係のあり方とすれば、そのコントロールの仕方こそ、子どもが一人の人間として自立するためのハードルの一つとなる。そして「いじめ」は子どもたちのみの世界で生じる現象である。とすれば、「いじめ」の克服は、大人による子どもの監視⇩処罰⇩消滅という方向ではなく（原理的に不可能）、たとえ時間がかかっても、子どもたち自身が一人の人間として自立するために何が必要かを問いつづける過程において解決すべき課題と考える。

これが二つ目の視点である。

すなわち、「いじめ」の原因をみると、「両方」が半数近い。これは「いじめ」の当事者（加害、被害、傍観のいずれも含めて）とは教師でも親でもなく子どもたち自身であり、それゆえに「いじめ」の解決の方法は当事者である子どもたち自身が見いださなければならない、ということを示唆していると考える。

「いじめ」に関する報道や論議は、その原因と解決方法として、学校と教師あるいは親のあり方に求める場合が多い。このことは、たとえ善意が前提とはいえ、子ども自身を保護すべき対象としかみていないことにならないか。

もちろん、これは、大人の側に責任がないというのでも、「いじめ」の問題は子どもに任せればよいということでもない。まして、「いじめ」の側にまわる子どもは、かつて「いじめられた子ども」である場合が多々あり、大人とりわけ教師の心ない言動や対処の仕方が「いじめる原因」になっていることを忘れてはならない。

このことを前提にしたうえで、子どもたちに、自分たち自身が「いじめ」をコントロールするために何をすればよいか、ということを考え行動する機会と場をいかに用意するか、これが最も重要なことと考える。そしてその成否は、私たち大人（教師も含めた）自身が自分たちの世界にある「いじめ」現象を克服することで、子どもたちに「いじめ」をコントロールする方法のモデルを提示できるかどうかである。

「いじめ」が人間の世界に普遍的に存在する現象であるとすれば、それをいかに克服するかが、年齢にかかわりなく「自立した人間の証明」であることをあらためて強調しておきたい。

楽しい学級経営　5月号／No.118

# 「いじめ」をめぐるクラス討論

★表紙絵＝飯島英明

●今年も魅力あふれる連載欄　●家庭訪問を成功させる秘訣は！　●「いじめ」に正対する学級づくり　●緊急報告!!「いじめ」の実態・子供の意識と対応・教師の取り組み・今何をしなければならないのか！　⬅GUIDE

●提言・子供が主役の学級づくりとは？（小林　篤）
●グラビア①＝私のパフォーマンス術（池田　操）
●グラビア②～④＝学級づくりに役立つ教室環境づくり（金井英治）
●子供を励ます言葉（酒井臣吾）


**提言＊「いじめ」の克服―教師に期待すること**

いじめられる子に問題はない　坂本昇一　9
教師もいじめの大きな要因　宗内　敦　10
いじめと学級集団　秦　政春　11
「いじめ」のコントロールは現代の「人間の証明」　馬居政幸　12
「王様はハダカだ」がいえる空気へ　伊藤友宣　13

**クラス討論「いじめ」をどう話し合ったか（小学校の報告）**

応援出来ることはない？　北岡隆行　14
全員に当事者意識を持たせる　星野裕二　18
「いじめ」に関する5つの質問　戸田正敏　22
何がいじめなのか、何がいじめでないのか　松島正弘　26
「いじめ」は悪い。しかし……　有動英一郎　30
報告を読んでの感想　(1)　向山洋一　34
(2)　菅野　純　35

**クラス討論「いじめ」をどう話し合ったか（中学校の報告）**

知る　考える　そして宣言する　小坂桐子　36
事実にもとづく一斉討論　坂井敬輔　40
事件を討議し、集団の意識を高める　小川幸男　44
教師だけがいじめを解決できる　高橋正和　48
生徒たちが話し合えること　日髙　享　52
報告を読んでの感想　(1)　坂本光男　56
(2)　明石要一　57

**「いじめ」を許さない学級の雰囲気づくり**

何より教師の自己改革を　大串正弘　58
風通しのよい学級にしよう　藏満逸司　60
教師の強引な働きかけで　山崎雄史　62
安心感と信頼・協力関係があれば　大森俊彦　64
前ぶれ現象を教え、チェックせよ　西尾文昭　66
学級に、正義と秩序を！　豊吉博義　68

**三二特集　成功させる家庭訪問**

家庭訪問―事前準備のポイント　石川裕美　70
保護者への接し方　舘野健三　72
成功させる家庭訪問のアイデア
家庭訪問は道づれとともに　谷澤桂子　75
教師は探偵ではない　川上弘宜　76
子どもに道案内を頼む　吉田高志　77
古くて新しいアイデア　日浦成夫　78
基本パターンを忠実にこなそう！　岡田健治　79
あらゆる情報を駆使して　関根勝志　80

**連載**

**私が心にとめた教師**　②
「教育技術は人柄そのもの」ということを教えてくれた樋口方次先生　有田和正　81

**なぜ野外文化教育が必要か**　②
野外文化教育の考え方　森田勇造　83

**学級で育てる「言葉の文化」**　②
言葉の健康、言葉の病理　野口芳宏　84

**指さし授助する教師**　②
「見る―見つける・相互効果」　[illegible]　[illegible]